Global Radar グローバル・レーダー 1

国際測量者連盟と2010シドニー総会

日本測量協会 西 修二郎

4年毎に行われる国際測量者連盟の総会が4月11日～16日の日程でオーストラリアのシドニーで開催された。今回の総会はこれまで開催された総会の中で最大規模の総会であり，約100カ国から2200名以上の参加者と大盛況であった。しかし，月刊『測量』の読者には，国際測量者連盟といわれてもピンとこない方が大部分であろうと思われるので，最初に国際測量者連盟について簡単に紹介をしておこう。

国際測量者連盟（FIG）

国際測量者連盟は，全世界の測量者の利益を代表する国際的な組織である。その歴史は古く1878年にパリにて創設されている。正式名称はフランス語でFédération Internationale des Géomètresと表記され，その頭字語であるFIGがその略称である。現在FIGは国連で認められている非政府組織（NGO）であり，100カ国以上からの会員で構成されている。FIGの大きな目的は，地域や市場のニーズに合った測量が行えるようにすることである。FIGの活動は4年毎に作成されるワークプランに沿って行われる。現在のワークプランは“能力開発”をテーマに掲げている。これは測量技術者が社会的，経済的な変化あるいは技術的，環境的な変化に対応できることに焦点を当てた計画であり，専門機関での測量教育強化や継続教育の推進により測量技術者が市場のニーズに応えられるようにすることに重点を置いている。

ただFIGのいう測量技術者は，日本で我々がふつう使う測量技術者よりはるかに広い概念を含んでいる。大雑把にいえば日本の測量士に土地家屋調査士や不動産鑑定士，更には都市計画プランナーまで包含したものということになろうか。この守備範囲の広さはFIGの中に設けられている分科会の構成によく表れている。分科会はFIGの技術的な活動を行うもので以下のように10の分科会に分かれている。

第1分科会：測量実務
第2分科会：測量教育
第3分科会：空間情報の管理
第4分科会：水路測量
第5分科会：測位と測定
第6分科会：応用測量
第7分科会：地籍測量と土地の管理
第8分科会：空間の計画と開発
第9分科会：不動産の評価と管理
第10分科会：建設経済と経営

FIGの活動の中心になるのは，総会で選ばれる会長と4人の副会長とで構成される評議会とその評議会の下にある分科会である。その活動で特に重要なのは，定期的に開催される総会，年次会合のプログラム準備，運営と，FIG活動の4年毎の基本方針ともいうべきワークプランの作成である。これらFIGの活動の様子はFIGのHP（http://www.fig.net/）や分科会のニュースレター（www.fig.net/comm/comindex.htm）で入手可能であるので一度見ていただきたい。日本測量者連盟は，このFIGの日本における唯一の会員団体である。FIGの守備範囲の広さに対応して国内の8公益法人（国際建設技術協会，全国建設研修センター，全国測量設計業協会連合会，日本水路協会，日本測量協会，日本測量調査技術協会，日本地図調製業協会，日本土地家屋調査士会連合会）と企業会員および個人会員とで構成されている。その活動はHPに示されているので，こちらもぜひ見ていただきたい（http://www.jsurvey.jp/jfs/index.html）。

2010シドニー総会

今回総会の行われた場所は，シドニー中心部に近いダーリングハーバーという港に面した広大な公園，庭園，博物館，ショッピングモール地域の中に建てられている多目的ホールのコンベンションセンターであった。ここは，日本でいえばパシフィコ横浜を思わせるようなコンベンションセンターである。

写真－1　中央後方の円形の建物がコンベンションセンター

FIG2010シドニーの会議では初日と最終日に総会が，また毎日プレナリーセッションと呼ばれる全体会議とテクニカルセッションと呼ばれる技術講演が行われた。

全体会議では，測量のグローバルな問題，すなわち気候変動や災害リスク管理，土地管理といった現在我々が直面している問題への取り組みとG空間情報社会，将来技術の問題等が取り上げられた。

また会議と並行して商業展示会も開催された。最初に総会から紹介しよう。

総会

総会はFIGの最高意思決定機関である。4年毎に開催され会長や副会長の選出，各分科会委員長の指名，予算の承認，新規会員の承認といった重要事項が執り行われる。総会は会長による開会宣言に続いてロールコールと呼ばれる出席会員の点呼で始まった。最初の承認事項は，新規の会員ならびに除名会員の承認である。その結果現在の会員数は，協会会員が99，連携会員が32，企業会員が35，学術会員が89，連絡員が18ということであった。ここで協会会員とは各国の測量分野を代表する協会団体，連携会員は協会会員としての基準を満たしていないが，専門的な活動をしている測量組織の団体，企業会員は測量に関連する商業サービスを提供する企業，学術会員は測量分野の教育または研究をする組織を指しており，それぞれ所要の年会費をFIGに納めている団体である

会長挨拶では，4年間の会長期間中の成果と総括があった。その中でFIGの歴史始まって以来のたくさんの報告書を出すことができたこと，会員は毎年増え続けていること，分科会の多くは，4年の任期終了にあたり報告書を準備していること等の報告が述べられた。

総会の中心は会長，副会長選挙である。今回の選挙で今後4年間（2011年－2014年）のFIG執行部体制が決まることになる。総会は初日と最終日の2度開催され，初日の総会では各候補者の立候補演説が行われ，実際の投票は最終日の総会で行われた。

会長には現在副会長のポストにある3人が立候補し，結果はマレーシア人のTeo CheeHai氏が次期会長に決まった。今回初めてFIGの総会に出たが，FIGの執行部に入るには，まず分科会で長年研究発表を重ねた後，分科会の委員長の経験を積み，次に副会長，会長とステップアップしていくのが一般的なようである。現会長も現副会長も皆そのようにして選ばれてきている。日本の大学の研究者の中から早くそのような人材が出てくる日を待ち望みたいという想いにかられた総会であった。そのためにはFIGの日本での認知度を上げる必要性を痛感した次第である。最後は2014年のFIG総会開催地の決定である。候補地はクアラルンプール（マレーシア），イスタンブール（トルコ）の2都市で，投票の結果，クアラルンプールに決定した。これはアジアで初の総会開催だそうである。これでマレーシアは会長と開催地の両方で勝利したことになる。国に勢いのある時はこのようなものであろう。

写真－2　総会の様子

写真－3　日本の代表団席，ケニヤとジャマイカの間

開会式の基調演説

開会式は4月12日（月）に行われ，会長の開会宣言で始まった。基調演説は，オーストラリアを代表する思索家であり，国際的に認められている科学者，自然保護論者であるTim Flannery氏が行った。

Tim Flannery氏は，シドニーマッカリー大学の教授である。基調演説では今回の会議のテーマになっている「新たなる挑戦」に関連して，21世紀の大きな挑戦課題のひとつである気候変動の問題を取り上げた。気候変動と地球温暖化や人類活動との関係について言及し，すべての人が自分自身が気候変動を起こしているのであり，手遅れになる前に新たなる挑戦に向かうしか選択肢はないことに気付くよう，まわりの人を動かすことであるとの主張であった。測量の国際会議の基調演説で気候変動が取り上げられるというのも，気候変動に伴う自然災害と土地管理の問題が開発途上国で切実になっていることからきている。

次に全体会議（プレナリーセッション）を見てみよう。

全体会議

全体会議はテーマ毎に招待演説と討議が行われるものであり，4つ開かれた。

ここではそのうちの一つこれからの測量に影響を与える技術について，異なる視点での基調演説が行われた全体会議について紹介しよう。ひとり目の基調演説者Ed Parsons氏は，グーグルのG空間情報技術者であり，グーグルに入る前は英国の陸地測量局主任技術者であった人である。彼は世界中の情報をグーグルアースやグーグルマップを使って体系化するというグーグルの使命と将来像について述べた。これは測量がやろうとしているG空間情報化社会の先取りである。もう一人はFIG副会長のMatt Higgins氏である。彼はGNSSの進展に伴いユビキタス測位インフラの実現が迫っており，測位の革命が起きていることを力説していた。

技術講演

技術講演は10の分科会毎に並行して行われた。発表論文数は約800にも上った。発表論文のテーマは，例えば，土地行政，空間情報インフラ，測地観測システム，

写真－4　技術講演の様子

品質管理，都市計画，不動産鑑定，測量教育eラーニング，応用測量，測量資格と様々で，FIGで議論している測量の分野の広さが分かるであろう。発表論文数が一番多いのは第7分科会：地籍の分野で次が第5分科会：測位の分野と第3分科会：GISの分野で，現在の関心事がどこを向いているかを示している。今回からは従来の非査読論文に加えて初めて査読論文の提出も受け付けており，日本のGISや測位分野の研究者にはぜひ参加していただきたいと感じた次第である。

商業展示会

会議場の隣では，測量関連会社による商業展示会が開かれていた。これは2010年に南半球で開催される展示会のなかで最大のものということであったが，会場の広さは50m四方程度であったろうか。規模としては日本の地理空間情報フォーラムの時の展示会よりは若干小さめという感じであった。良い工夫であると思ったのは，展示会場のなかに軽食と飲み物が用意され，会議出席者が昼食休憩を兼ねて展示が見られるようにしていたことである。これも盛況であった。

おわりに

今回会議は盛況であったが，残念なことに日本からの出席者は私の他は日本土地家屋調査士会連合会からの4人の計5人だけであった。ほとんどの国で大学や政府の測量関係機関，研究所からの派遣者が見られたことから，FIGの日本での認知度の低さにいささか寂しさを感じた次第である。特に今回は各国の政府測量関係機関からの代表者を集めての特別フォーラムもあり，それに日本の政府関係者が見られなかっただけになおさらであった。4年後の2014年のクアラルンプールFIG総会会場で，日本が2018年の総会開催地として立候補している幻がチラッとよぎったが，現在の日本測量者連盟の体制と現在の日本でのFIGの認知度では無理だとすぐに頭から追い払った。これがいつかは正夢となるように日本で測量，地図に関係するより多くの政府関係機関，学会関係者，大学研究者がFIGに対して関心を持ち，FIGの各種会議に参加してくれるようになることを願うばかりである。

写真－5　商業展示会の様子